

作業療法 第43巻 第4号 (通巻241号) 目次

◆巻頭言

[機械工学論文と作業療法論文](#) 松本 政悦 457

◆学術部報告

[学術誌『作業療法』第42巻の表彰論文](#) 学術誌編集委員会 459

◆原著論文

[運動恐怖が橈骨遠位端骨折掌側ロックングプレート固定術後の短期成績に与える影響](#)
. 白戸 力弥・他 462

[ADOC/ADOC-S 導入後の訪問作業療法に関する記述的研究 —ケースシリーズ—](#)
. 米嶋 一善・他 470

[レビー小体型認知症への作業療法評価に関する文献レビュー](#) 佐々木 智也・他 480

[作業との結び付きに関する評価尺度 \(Assessment of Occupational Engagement; AOE\) の](#)
[開発 —尺度開発研究—](#) 齋藤 駿太・他 489

[日本の医療機関における作業療法士による社会的処方の実践状況とその役割](#)
[—スコーピングレビュー—](#) 木口 尚人・他 499

[臨床リハビリテーション場面におけるクライアントとより良い関係を形成するための](#)
[コミュニケーションと介入技能評価の開発](#) 篠原 和也・他 511

[身体障害領域のリハビリテーション職種における業務内容の実態調査および適正単位予測式の](#)
[作成](#) 江田 昌幸・他 521

◆実践報告

[頸椎症性脊髄症に対するしびれ同調経皮的電気神経刺激が生活行為に及ぼす効果](#)
[—症例報告—](#) 北上 守俊・他 532

[統合失調症と聴覚障害を重複する人への地域生活支援](#)
[—クライアント中心の作業療法の実践—](#) 馬場 順子・他 540

[作業中心の個別プログラムを通して意味のある作業の「遂行」から「結びつき」へ移行するこ](#)
[とで作業に対する満足度、自己肯定感、主観的QOLが向上した事例](#) ~精神科に入院する

[脳出血後遺症を伴うクライアントとの実践報告~](#) 永井 美咲・他 548

[脳卒中後のアパシー類型化に関する神経生理学的側面からの検討](#)
[—NIRS を用いた分析結果のクラスター解析による類型の試み—](#) 海光 拓磨・他 556

[通所リハビリテーションにおける多職種・家族・企業との連携をマネジメントした段階的な介](#)
[入により復職に至った一事例](#) 太田 康介・他 565

[長期入院統合失調症患者における「たたき染め」の治療効果](#)
[—生理学的指標を用いた事例検討—](#) 江口 喜久雄・他 573

右後頭葉皮質下出血後に左四分盲を呈した事例に対して自転車運転の獲得を目指した実践

— 医師や介護家族との協働 — 山本 侑希・他 579

外来作業療法における認知関連行動アセスメント (Cognitive-related Behavioral Assessment:

CBA) の臨床有用性 — OT と患者家族間でCBA を活用した一事例 —

. 恩田 真也・他 586

高齢心不全患者に対するCOPM を用いた患者教育と自己管理シートの実践により

早期に自宅退院を果たした一例 岩元 祐太・他 593

編集後記

▶第 42 巻表彰論文が掲載された。審査ではどれも興味深く、推薦数点に絞るのは難しかった。実践報告が増えた印象があり、私が OT になったころの目次と見比べてみた。「研究と報告」が 2~5 件、その次に「実践ノート」があるかないか。24 巻 3 号 (2005 年) に「実践報告」となってからもその傾向は続いたが、35 巻 6 号には 7 本掲載されている。20 年前、ある雑誌の創刊号に、さまざまなクライアントそれぞれの身体と心と脳にふさわしい作業を見つけて実践を助け、その結果を公開することが作業療法の核心に迫る仕事であると、わが師 K 先生が寄せたことに思いを馳せる。先生、私たちは核心に近づいていますよね？ 引き継いだものをさらに先に運びたい。一周忌に。 (K・O)

▶前号 (43 巻 3 号) より、本誌の投稿規定、執筆要領が改定されている。特に、論文種別における総説の捉え方が大きく変更となった。総説 (レビュー) の種類例としてシステマティックレビューやスコーピングレビューを列挙したとおり、厳密な手順に則った総説 (Critical review) の投稿を推奨している。本号でもレビュー論文が原著論文として掲載されているが、今後は総説として取り扱われるようになることに注意していただきたい。近年、本誌でもスコーピングレビューが多く掲載されているが、執筆の際には国際的な報告ガイドラインである PRISMA-ScR や JBI Manual for Evidence Synthesis を十分に参照することが望ましいだろう。 (K・Y)